

# さかどばしペパークラフト



**ご注意**

のりやはさみ、ピンセットなど、小さなお子様に危険と思われる道具や材料を使用しますので、小さなお子様の手の届かないところで作業してください。

**道具・材料**

はさみ又はカッターナイフ、三角定規、のり(スティックのりがおすすめです)、セロテープ、使用済みのボールペン(折りぐせをつけるのに便利です)、爪楊枝、ピンセット

**作り方のコツ**

のりづけの前に、山折り、谷折り部分に折りぐせをつけます。ていねいにパーツを切り離すためにはカッターナイフが便利です。

山折線(点線)



山折りにしてください。

谷折線(一点鎖線)



谷折りにしてください。

切取線、切込線(実線)



切り取りあるいは切り込みを入れてください。

作り方

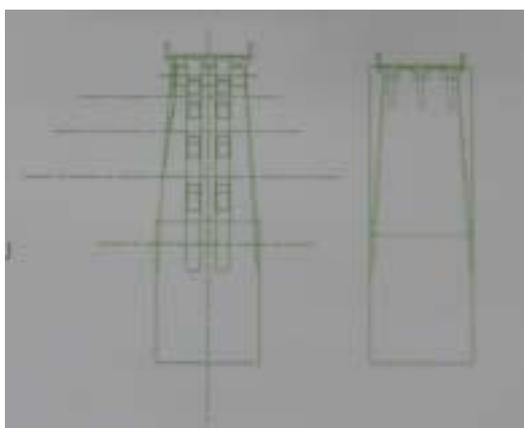
# 組み立てる前に

このペーパークラフトは、建設当時の設計書をもとに実橋の形状を忠実に復元しています。きれいに組み立てるために、組み立て前にお読み下さい。

第1点は、車が通る部分が水平ではなく、橋の中心を頂点として少し山折れになっています。



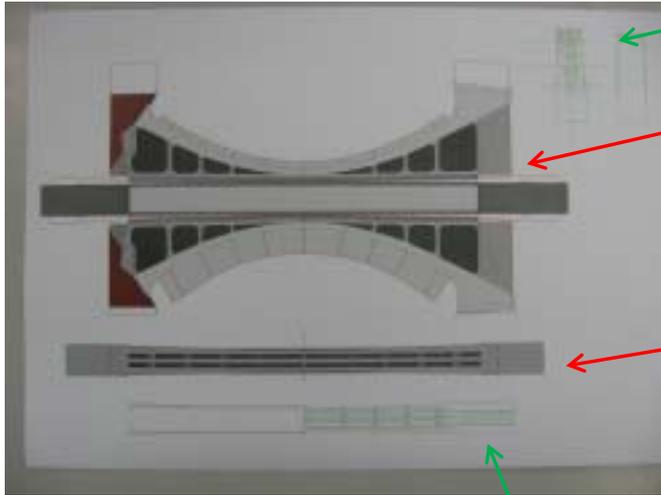
第2点は、橋を横から見た横断形状が台形形状になっています。1枚目の緑線で横断形状を描いております。



このペーパークラフトを完成させて実際の坂戸橋をご覧くださいますと、当時の設計思想が見えてきます。

**完成までの所要時間 概ね90分です。**

# STEP 1 部品の確認

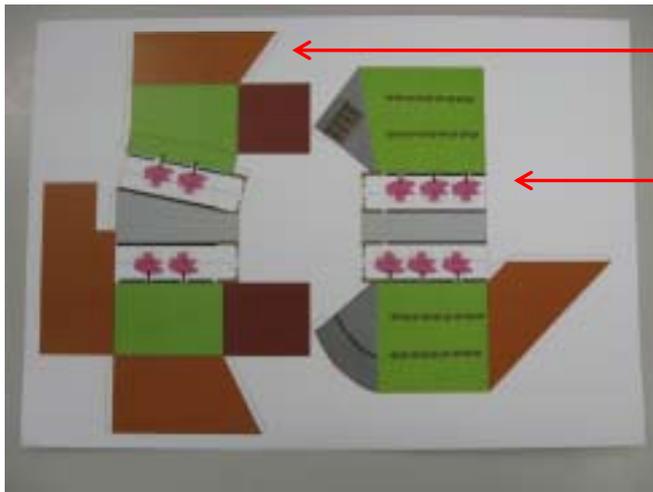


使用しません

組み立てに必要な  
用紙は3枚ありま  
す。

1枚目には橋の部  
品である と の  
部品です。  
緑線のパーツは組  
み立てには使用し  
ません。

使用しません



2枚目には盛り土  
の部品である と  
の部品です。

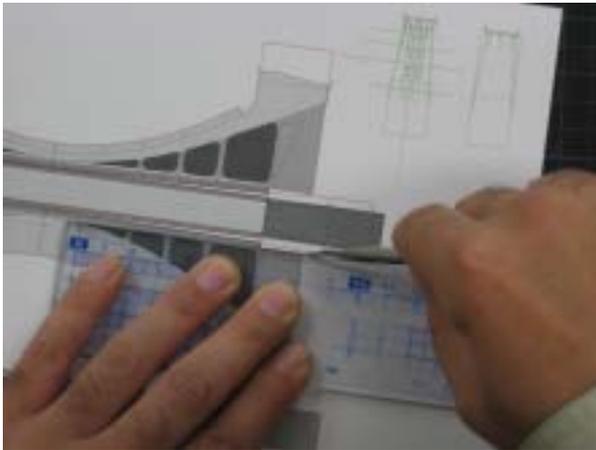
3枚目は組み立て  
た橋の台座 です。



一般国道 大草塩戸線 塩戸橋  
国庫：昭和38年(1963)  
設計：鉄橋コンサルタント  
橋長：7.8m スパン長：7.0m  
2010.1 登録有形文化財

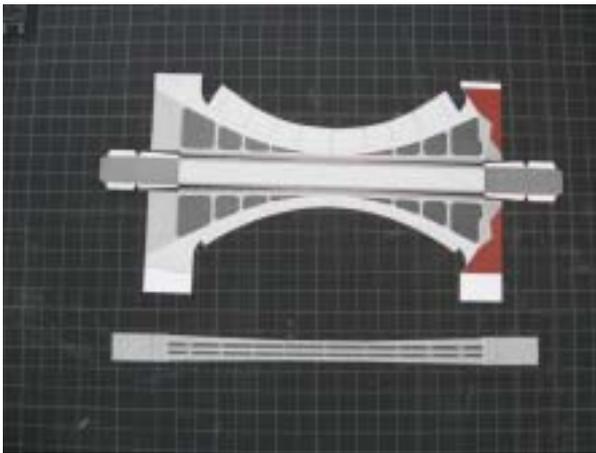
登録有形文化財  
大草塩戸線 塩戸橋  
2010

## STEP 2 部品の切り取り



まず、部品 ~ までを赤い線に沿ってカッターナイフを使って切り取ります。はさみでも切り取れますが、カッターナイフの方がいいに切り取れます。

カッターナイフを使用する場合は、カッティングマットなどを敷いて下さい。



1枚目が切り終えた状態です。



きれいに折るために、使用済みのボールペンを使って山折り線に沿って折り目を付けます。

~ の部品を切り取り、折り目を付けます。

# STEP 3 橋部品の組み立て(1)

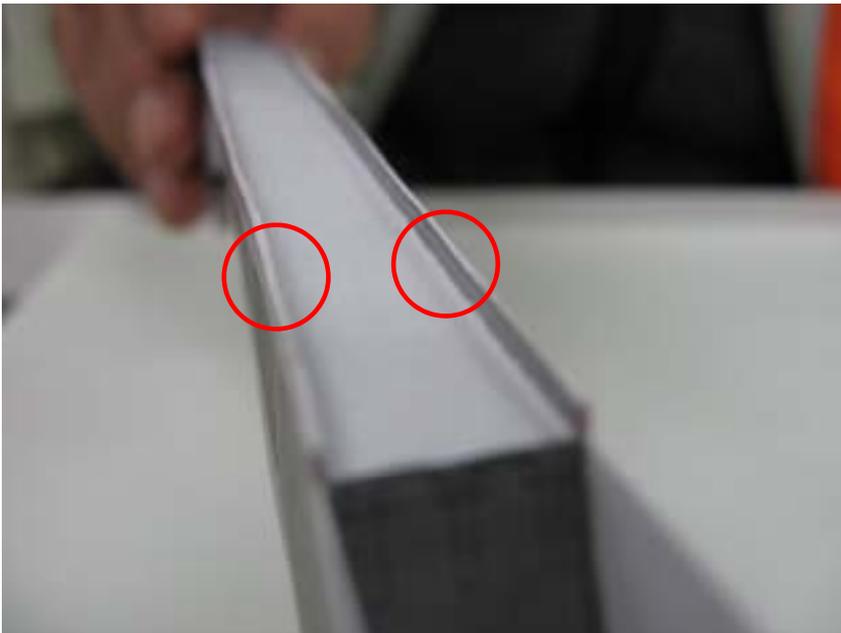


切り取った部品 を折り目に沿って折りぐせをつけたら、各部品を折っていきます。

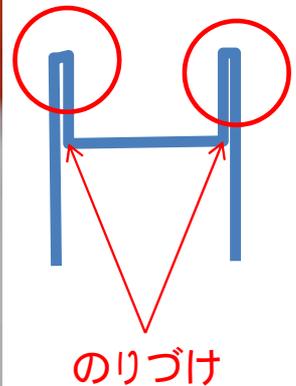


しっかり折れれば、のりしろにのりを付けて貼り合わせます。

橋の高欄(こうらん)部は山折りと谷折りで形を整えます。細かい作業ですが、ていねいに折って下さい。



下のように折りのり付けします



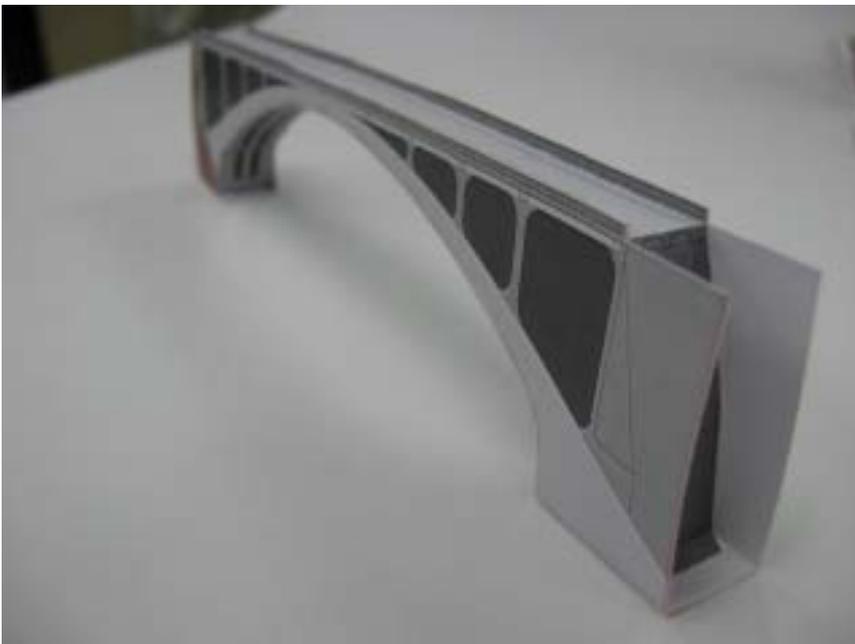
### STEP 3 橋部品の組み立て(2)



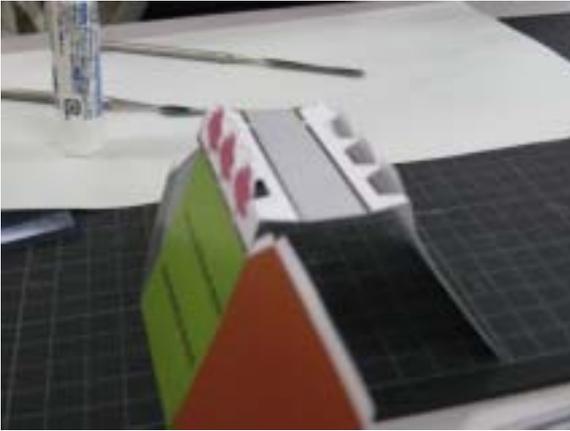
部品の組み立てが終われば部品を部品の下のりづけします。



形を整えれば橋の完成です。



## STEP 4 盛り土部品の組み立て(1)



盛り土部品 と は写真の  
ように桜の木を切り抜きます。



先ほどの高欄と同様に山折  
りと谷折りで形を整えのりづ  
けします。

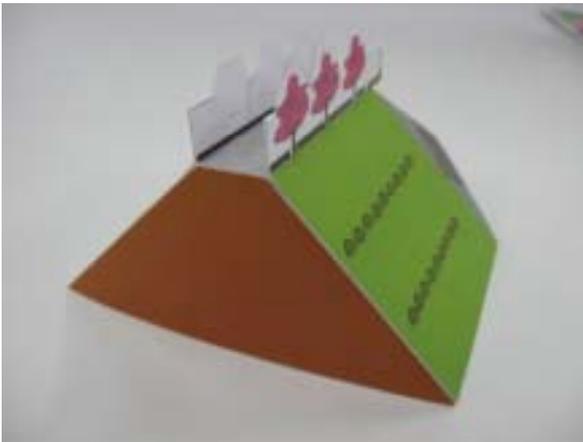


のりづけしたら、しっかりと  
貼り合わせます。

## STEP 4 盛り土部品の組み立て(2)



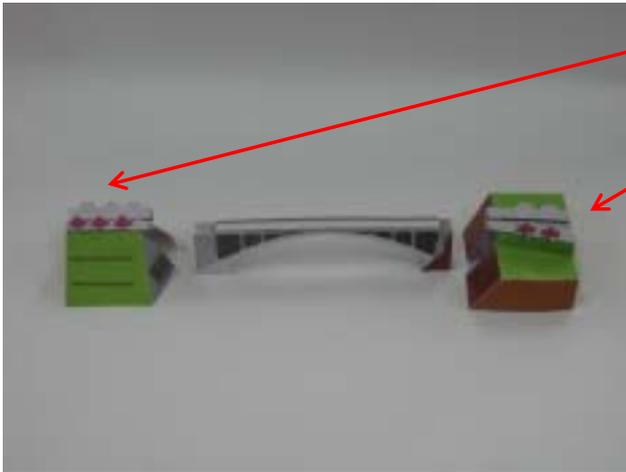
他ののりしろにものりを付けて、しっかり貼り合わせます。



形を整えて完成です。



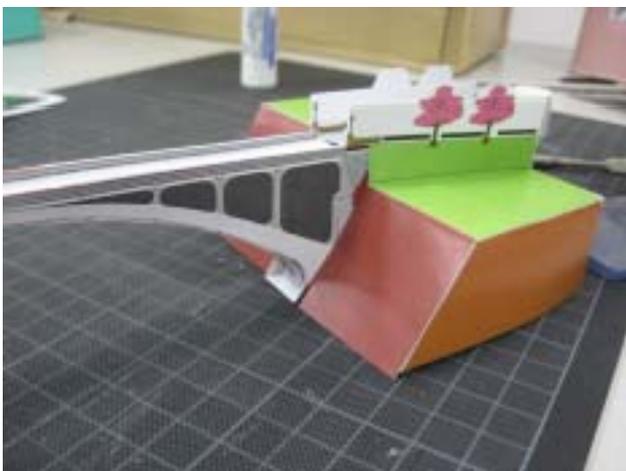
## STEP 5 橋と盛り土との組み立て



部品 と橋部品と部品  
を写真のとおり並べま  
す。



部品 と橋部品をセロ  
テープで貼り付けます。  
同様に橋部品と部品 も  
セロテープで貼り付けま  
す。



最後に形を整えて完成で  
す。

## STEP 6 台座への貼り付け



部品 の登録プレートの左右辺と上辺を切り取ります。



切り取った登録プレートを橋部品と部品 を写真のとおり並べます。



台座 に完成した部品をセロテープで貼り付けて完成です。